

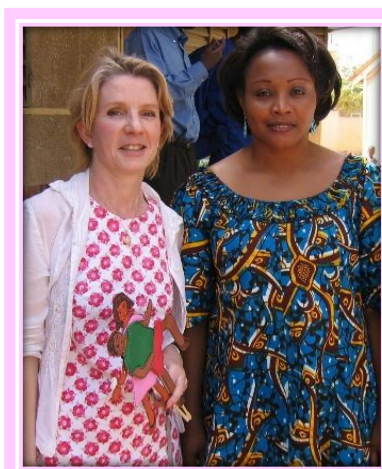
「出会い」は活動の原動力

14年前に父の遺産整理のためにダカールに行ったある日、社会貢献を熱心に行うセネガルの女性達の団体の集いに招待されました。そこに展示されていた『紙芝居』に目を奪われました。

紙芝居は立体的に作られてあり、手洗いをしないママドゥくんによく手を洗うアミナタちゃんの話―見事な脚本で、「昔話や童話や語り部の叙事詩の大好きなセネガルの子供がきっと魅了されるだろう」と頭を巡らせながら、芳名帳に自分の名前と住所を書きました。その時、フランス人の私に『Vous habitez au Japon (日本に住んでいますか。)?』とお声をかけて下さったのが古屋会長でした。

印象的な紙芝居は『手を洗おう会』が作成したとのこと知り、数週間後東京で会い、私は当時の会・任意団体手「手を洗おう会 TAK」(特定非営利活動法人 APHW の前身)の趣旨を聞いて、すぐ会員になりました。

その後会員の方々へのフランス語教育及び、セネガルへ行く折につけ、手洗い活動のお手伝いをさせて頂いてきました。普通セネガル支援は、ほとんど国際協力による国レベルの援助しかないのに対し、この会の目的は、一般的な人、しかも子供の生活を直接改善すること。「私が生まれた大好きなアフリカの子供のために、何かできる」と心底思い、今でも、その願いを考えるとワクワクします。アフリカと日本で、一般的な人々のレベルでの文化交流ができれば、もっと理解しあえて、日本とアフリカは少しずつ緊密関係を築くことができます。この会は、普遍性のある、世界中の子供が大切にされ近づき合うように広闊な趣旨で活動する、信頼ができる会であります。毎年楽しく参加しています。



成城大学 講師&「手を洗おう会 aphw」顧問
Florence Debaud (フロランス デゥボー)
日本在住 30年 会員歴 14年

【写真左 Florence 氏 セネガルで手洗い活動協力 ナフィサト・ニアン小学校の校長先生と】